

中国、塾や教室続々

儒教復権

中国で「封建主義の道德」と批判された儒教が復権、市民生活に定着しつつある。孔子の「論語」を音読する子ども向けの塾は花盛り。ビジネスマンの儒教教室も人気だ。急速な国際化や経済成長が中国人としての自己意識を求めさせる。とはいえ、格差の拡大や拝金主義の横行には不満が強い。国民をまとめる思想を探る当局の思惑もかいま見える。(南京〈中国江蘇省〉＝塚本和人)

ベビーカーの「生徒」も

「子曰、学而時習之、不亦説乎」(子曰わく、学んで時にこれを習う、またよろこばしからずや)

明などの都として栄えた南京。毎週土曜日の午前、中心部の鶏鳴寺境内に論語の一節を読む大きな声が響く。小さな講堂に机が並び、壁には孔子



の人物画や写真がある。5、6歳の幼稚園児約30人が親と並んで座り、唐時代の古典音楽の伴奏で歌うようにリズムをつけて音読していた。1日2時間で2段落を暗記させる。

昨年3月、南京航空航大大学の講師で哲学を教える戴伝江さん(38)のグループがボランティアで始めた。幼稚園の先生らと指導法を考え、教科書は手作りだ。学費は無



学而時習之、不亦説乎



鶏鳴寺の講堂で「論語」を勉強する子どもと親たち＝南京市で、上田幸一撮影

孔子生誕祭に政府幹部の姿

孔子の故郷、山東省曲阜。孔子廟などが世界遺産に登録され、年間600万人が訪れる儒教の聖地だ。昨年9月の孔子の誕生日には、生誕2556年を記念した省政府などが主催した「国際孔子祭り」が開かれ、中央政府の幹部や企業幹部、学者ら約6千人が集った。式典では市長が祭文を読み上げた。「孔子への崇拝を表すとともに孔子思想を国内外に広げるため」と、曲阜市共産党委員会の袁炳新・副書記(50)は説明する。

袁副書記は世界の儒教研究の拠点をめざすと

徳として儒教思想は必要だ。教室は学者としての責任感から始めた。政治思想として教えるわけではない」と言う。

5歳の一人息子を通わせる母親(34)は「競争の世の中でも、物事の道理は分かる大人になって欲しい」。自宅でも論語のCDを流し、家族そろって論語演習の日々だ。

南京では公立の幼稚園や小学校の一部でも儒教思想を教えるが、教師次第。子どもに精神修養や教養を願う親は増え、市内にある論語の教室は少なくとも5カ所。

語る。00年に孔子研究院が正式に発足している。昨年はユネスコに申請していた「孔子教育賞」の設立が決まり、今年は第1回の選考が行われる予定だ。世界の教育貢献者にささげる賞で、ユネスコが選考し、市が賞金30万(約3400万円)を出す。

昨年6月に北京の中国社会科学院に設置された「儒教研究センター」など、と分析する。

社会変化が影響／復興、民間主導で

中国人民大学農業農村発展学院の康曉光(カン・シアオコワン)教授(43)は98年から子どもへの儒教教育の推進を呼びかけており、ブームの火付け役の一人だ。「計画経済から市場経済へ、集団制から私有制へと急速に社会が変わる中で価値観が混乱、みんなが迷っている。そこで伝統的な倫理観を求め始めた」と復権の背景を語る。

一方、北京師範大学哲学

社会学学院の李景林(リー・チンリン)教授(51)は、儒教ブームは歴史の必然だとして上で、政府が曲阜の孔子祭りを主催し、市長が祭文を読んだことについて「政教分離の点で問題だ」と批判する。「儒学は文化理念であり、今は政治思想でも指導理念でもない。復興はあくまで民間主導でなされるべきだ。現代社会に合った新しい儒学の創造が必要だ」と話す。